MDGsからSDGsへ：
問われる開発系NGOの意識変革

動く→動かす
稲場　雅紀

MDGs・SDGsひとことで

MDGsは「ひとこと」で言えたが、
SDGsは少なくとも「ふたこと」かかる

★MDGs＝2015年までに世界の貧困を半分に

★SDGs＝2030年までに
- 極端な貧困をなくし
- 持続可能な世界に変える

本当は、「格差をなくす」「平和・民主主義・透明性」「公正な経済システム」などいろいろ言いたい…。

それなりにうまくいった「はず」のMDGs

MDGs 2000-2015

目標1

とてつもない貧困と飢えをなくそう

目標2

みんなが小学校に通えるようにしよう

目標3

ジェンダーの平等を進めて
女性の地位を向上させよう

目標4

子どもの死亡率を下げよう

目標5

女性が健康な状態で妊娠し、
子どもを産めるようにしよう

目標6

HIV/エイズ、マラリア、
その他の病気が広がるのを防ごう

目標7

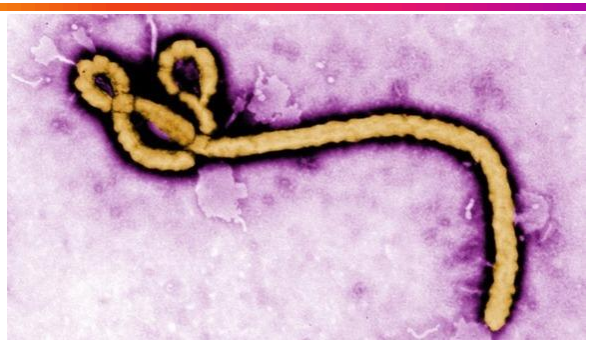
環境の持続可能性を確保しよう

目標8

世界の一員として、
先進国「も」責任を果たそう

それなりの資金が社会開発に。MDGsは、世界全体で見れば、ほどほどにうまくいったはずだった。先日の事務総長レポートもそういう結果。

MDGs終了まであと１年の世界の風景



◆エボラ・ウイルス病が史上最大の流行

- ギニア内陸部、シェアレオネ、リベリアにとって、MDGsとはなんだったのか。
- 周辺諸国ではエボラを抑え込める程度の保健システムは構築された。では、ギニアではなぜそれが不可能だったのか。
- 多くの人々が政府や国際機関の命令に従わない⇒それは「無知」に還元できるのか？

◆介入の果てに…シリア・北イラクに「カリフ国」樹立

- MDGsの時代は、同時に、期せずして「対テロ戦」の時代と重なった。
- MDGsの14年間、アフリカでは劇的に紛争や死者が減少。しかし、中東・北アフリカ地域はその恩恵を受けなかった。
- 中東・北アフリカの現実は、「政治的・経済的疎外」と「主権/オーナーシップ」の課題の重さを突きつける。

MDGs時代に進んだNGO・市民社会の「内部化」＝それは、政治・経済・社会的に疎外された多くの人々と「市民社会」の距離を無限大に広げることに帰結していないか？

何かを置き去りにしていた私たち
現代世界の＜疎外＞の論理

「イスラーム国」

◆ イラク戦争⇒シーア派主導政権による支配の破たん⇒「イスラーム国」による領域支配

- ちなみに日本の役割は？

◆ 中東・北アフリカ革命（いわゆる「アラブの春」）⇒シリア内戦

- 原因＝圧倒的多数の若者の政治的・経済的・社会的な疎外（「極度の貧困」ではない）

「エボラ・ウイルス病」

	1958年、仏共同体から離脱して完全独立⇒仏はインフラを破壊して撤退⇒投資なき極貧状況で「鉄と血の独裁」⇒初代大統領の死後、軍事政権が親仏路線も開発については放置状態、コンテ死後はクーデターが続発、不安定な状況続く。
	奴隷貿易に由来する英領の古い植民地。90年代の凄絶な内戦後、「紛争後復興」をすすめたが、保健人材、保健システムの脆弱性を克服できず、エボラが拡大。一部地域住民の政府への不信感が対策への不服従を増長。
	米国の奴隷をアフリカに帰国させる運動から生じた19世紀からの独立国。同様に90年代の凄絶な内戦後、サーリーフ政権の下で西側諸国の「寵児」となるも、保健システムは十分に強化されずエボラの拡大に至る。

「ポスト2015」で私たちは仕事のやり方を変えられるか？

若年失業

高齢化

国内格差

気候変動

災害多発

多くの人々を置き去りにして「いくら出した」「何人救った」と自己満足

多国籍企業の税逃れ技法は高度化、不正資金流出は拡大

CO2の排出量はどこも増大、生物多様性の喪失も止まらず

現代世界は持続不能

地球何個分もの資源を大量消費＝次世代に地球を引き継げない

極端な格差社会＝問われる「社会の持続性」

「極度の貧困」の解消（MDGsの流れ）

「持続可能」な世界への移行（リオ+20の流れ）

「ポスト2015」が取り組む「世界の激変」とは？

★基本、すべて、日本で私たちが直面している問題

問題	具体的には…？
世界人口の大変化	◎人口は増え続ける→食料や水、資源に関する課題。しかし、 ➢ アジアでは2050年以降、高齢化、人口減少局面に ➢ 一方、サハラ以南アフリカは人口が増え続ける（2030年には人口20億人、2050年には世界の若者の半分はアフリカ人に）
格差と貧困	➢ 先進国、新興国、途上国いずれも、一部の支配層と一般の人々の間の格差が拡大。 ➢ 経済格差だけでなく、政治的、社会的疎外の拡大⇒「自分のことを自分で決められない」人々のフラストレーション
大量生産・消費	◎地球が現状維持できる生産量の1.5倍を消費している現状→できるだけ早く「地球一個分」の生産・消費パターンに戻る必要
気候変動	◎このままいくと2100年には地球全体で4度上昇 ➢ もうすでに影響が出ている（日本にも大きな影響） ➢ CO2を減らす「緩和策」だけでなく気候変動に適応して影響を軽減する「適応策」も必要。

やる気はあるのか？
心もとなかった「開発資金会議」

第3回国連開発資金会議

（場所）エチオピア・アディスアベバ
（日時）2015年7月13日～16日
（位置づけ）2016年以降の途上国開発に向けた「開発資金」の在り方について分析し世界レベルの方針を立てる（新たな合意文書を採択）
（成果）「アディスアベバ行動アジェンダ」を採択

グローバル・タックスには極めて消極的（合意文書に記述なし）

途上国の国内資金確保に最も重要な「税制」。グローバルにルールを決めていくことが必要なのに、国連を舞台にした政府間の組織は作らず。（これまでに少しプラスするだけ）

ODAはもう出ない。これからは途上国の国内資金、あと民間資金の活用だ！！

「民間資金が大事」といっても、中所得国の経済開発が中心。格差、人権、環境への負のインパクトをどう減らし、貧困国の貧困層がどう裨益するかについては十分な議論なし

何が問題なのか、わかってる？

世界中で強まる「自国中心」「競争原理」「違う道」の模索が必要

Leave No One Behind

このままじゃ取り残される

市民社会＝「国家利益」とは別の立場に立脚。

- 貧困国の貧困層、周縁化された人々の立場から、「疎外」の問題に切り込むアドボカシーが必要
- 強迫観念から脱し、真に「Leave no one behind」の政策を主張し続ける必要がある。

SDGsのスローガンとは裏腹に、すべての国が「経済的に取り残される」恐怖におびえているのが現代の世界。だからこそ、どの国も「自国中心」「競争原理」。